



農家の努力は限界！



7月25日、JA阿蘇阿蘇町カントリーエレベーター前で、県農政連阿蘇支部がJA・畜協・森林組合等の団体に呼びかけ、「飼料・肥料・燃料等価格高騰及び木材価格低迷危機突破大会」を開催し、農家等約900人が結集し厳しい現状を訴えました。

農家は、省エネ対策実施や有機物の活用など生産性向上に努めているものの、飼料・肥料・燃料等の価格の高騰は生産者の努力の限界を超え、厳しい経営

を強いられています。大会では、阿蘇市認定農業者の会が手作りしたムシロ旗をバックに、丸山信義支部長による「国は、農業は必要ないんですか！」との主催者代表挨拶に始まり、意見表明を畜産、園芸、稲作、林業の代表が行い「農家の頑張りには限界がある！国、県の救済を望む！」と訴えました。

トマト料理コンテスト 19品を審査

Tomattoベリーな街実行委員会主催「阿蘇トマトを使った料理&雑貨コンテスト」が6月29日、「はな阿蘇美」であり、県内外から19人が出場しました。観光協会や市観光課、旅館組合おかみの会など13人の審査員が、見た目、味、商品性などを審査し、その結果、最優秀作品は生地に湯むきしたトマトをミキサーにかけ加え色鮮やかに焼き上げた「トマトのシフォンケーキ」（河野京子さん・八代郡氷川町の作品）に決まりました。



「どれも個性にあふれ上手い。驚いています」と審査員。特産のトマトで魅力あるバラエティに富んだ商品開発が出来ることがわかり「まちのブランド」として期待が寄せられました。

農林水産省「立ち上がる農山漁村」に阿蘇町食と農を考える女性の会を選定



「みんなで地道に取り組んだ積み重ねの証です。阿蘇の農産物加工品が全国の方に愛され、どんどん地元野菜の消費につながることが目標です」と喜ばれる村上会長。

農業振興のため自ら考え行動する意欲あふれた取組を奨励する平成19年度「立ち上がる農山漁村」に阿蘇町食と農を考える女性の会（村上ミツ子会長）が選定されました。選考は首相官邸で開かれる有識者会議で行われ、その結果全国から59の事例が選定されました。

同女性の会は平成10年設立。地元農産物の消費と農家女性の活躍の場の拡充を目的に独自に研修を重ね、葉膳レストラン「燦」を内牧の「はな阿蘇美」内に開業。地元の新鮮な食材に加え、同じ趣旨で取り組む（株）阿蘇おふくろ工房の豆腐や大粒納豆、ハンバーグなども提供し、阿蘇らしさを味わえるメニューづくりにも努めています。

坂梨校区でソフトバレーボール交流

7月6日開催され、11チーム（男子6チーム（教職チーム含む）、女子5チーム）が優勝を目指し熱戦を展開しました。坂梨校区では、平成12年の小学校体育館建設をきっかけに、校区を5分団に分け健康づくりと交流を目的に公民館と体育協会が主催し大会を開始。今年で第8回を迎えました。

